

落 噺 建 築

妄想

から生まれる都市の滑稽噺



原作 中山亘

人間は滑稽な生き物なんてことを申しますが、そのユーモアというのは、なんでもない日常の、なんでもない振る舞いにこそ宿っているのではないかと思っています。



街中にあるなんでもない人間をよくよく眺めてみればもくもくと妄想が膨らんできて…、そこから生まれる他愛もないお断。一席お付き合い願っておきます。

零 「緊張」 した世界に潜む人間のユーモア



我々庶民が織りなす日常は元来ユーモアに溢れている。はずである。しかし人々は気づくことなく「緊張」した日々を送る。凝り切った緊張を緩和するオチのような存在が必要ではないだろうか。

落語は、だらしない人間が集った滑稽な弱者の世界の物語であり、ともすればある種、現代の桃源郷と呼べるかもしれない――



人間のユーモアを描き出すことを目論み、都市の人物の振る舞いを切り取る。身なり仕草からキャラクターを妄想し、噺を組み立てていく。



江戸時代、三題噺という見世物が流行した。客席から三つの言葉をもらって即興で噺を演じるものだ。合言葉を三つ揃えれば、滑稽噺は設計できるのである。

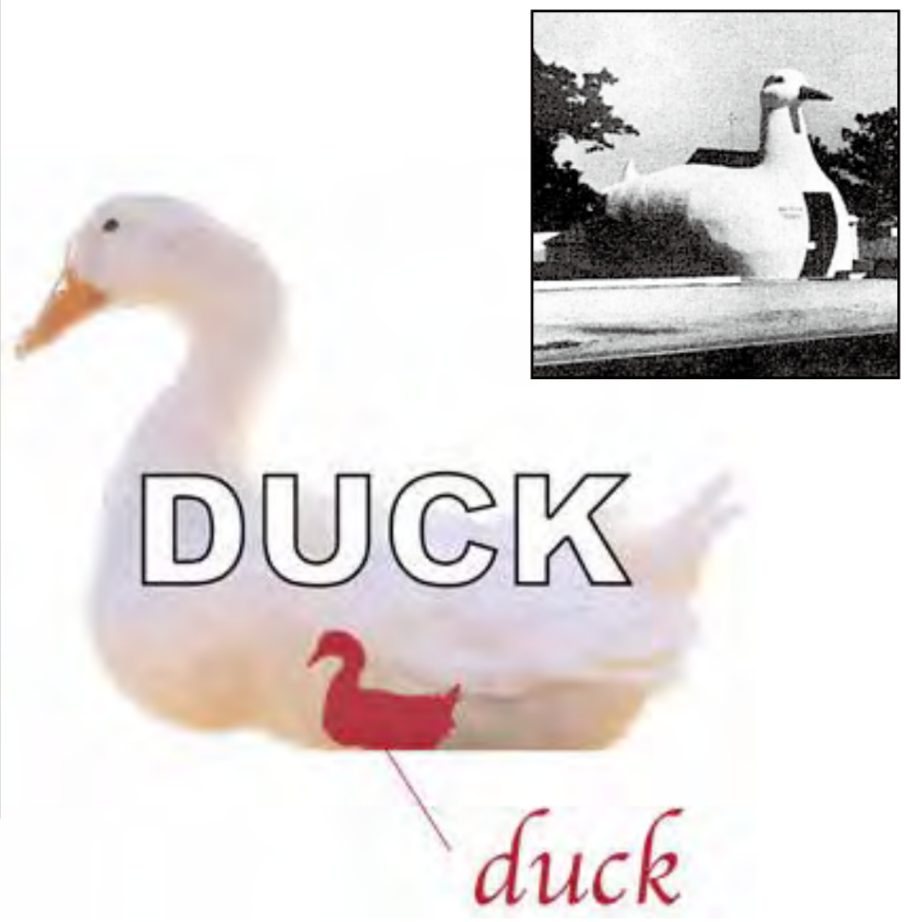
場所	モノ	人物

芝の浜 × 財布 × 酔っ払い

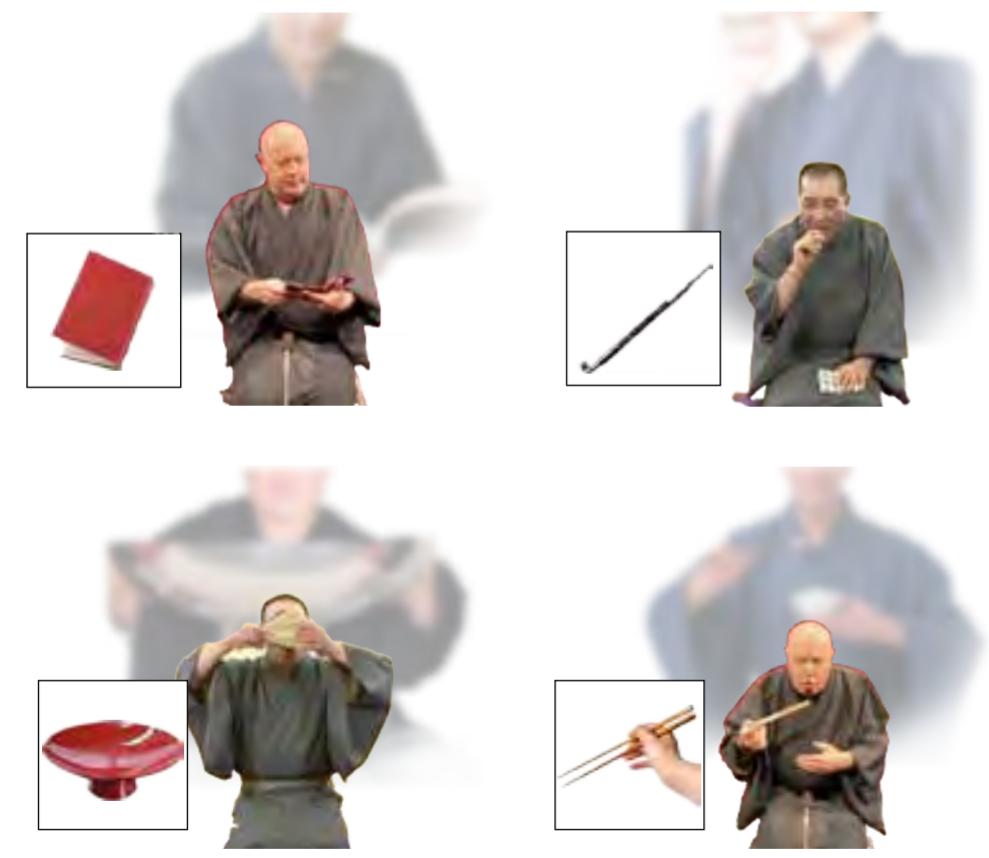
名作
「芝浜」



即興で作り上げる滑稽噺の舞台となるのは、主人公の姿が誇張的に描かれた化身のような建築である。内部には、その者のためだけの限定的な空間が存在する。



落語の笑いは、噺家の秀逸な誇張表現から生まれる。現実に忠実であることが全てとは限らない。阿呆なまでの誇張が時に無限の世界を描き出すのである――



浅草

敷地は浅草。かつては滑稽な弱者が集い、人間の生々しさに溢れていた――



写真講釈

煙草と閑古鳥

妄想隅田川

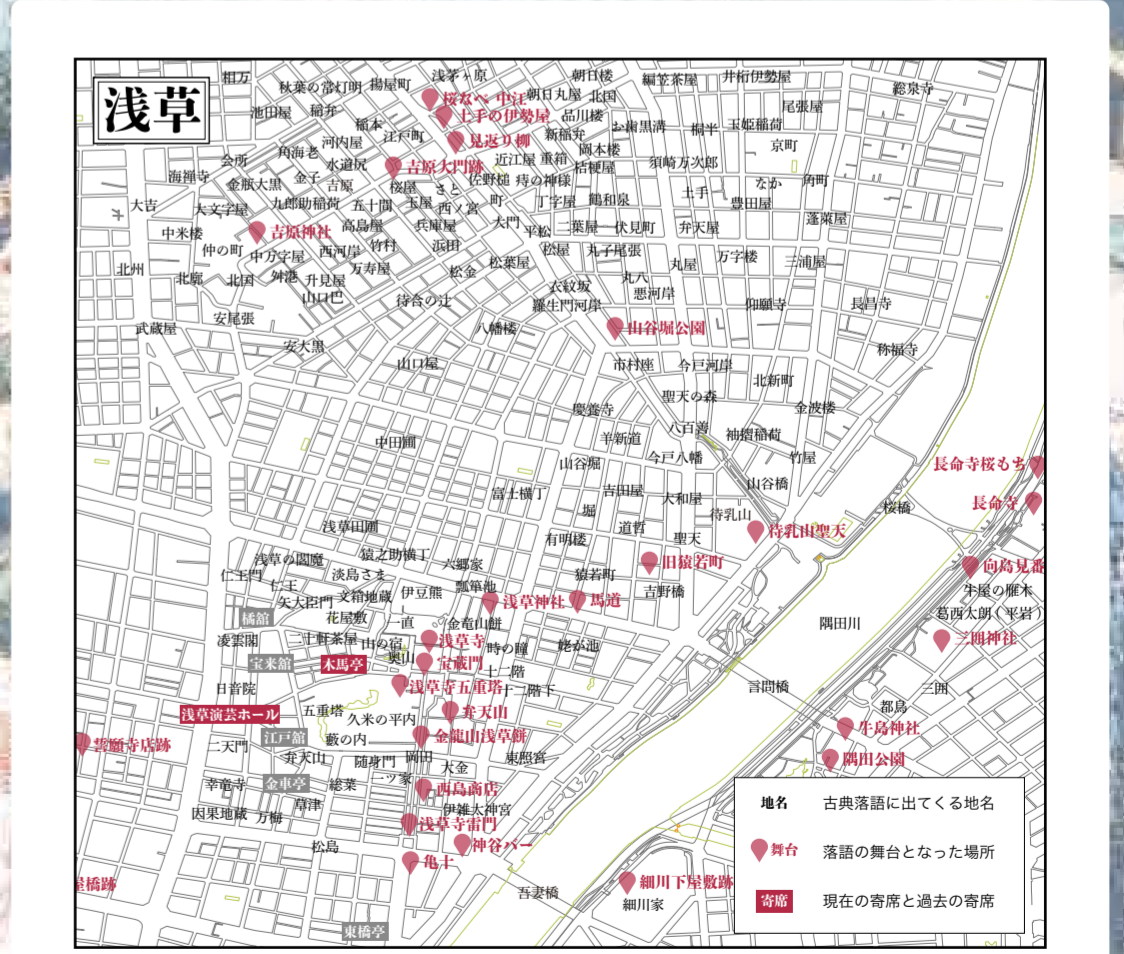
スカイツリー

浅草寺

鼻唄六区

仲見世通り

隅田公園



古典落語の舞台となった場所の図
浅草は最も多く登場した地域の一つである

浅草を三日間歩き回り、計百九十三名の人物を採集した。

ぴーぷるばんと

 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：安齋昌雄 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：合子チヤリ 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：TPO 究極 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：藤原正典 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：一筆の流 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：文字浮彫り 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：江戸の神楽 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：浅草橋のチヤリ 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：いびきゴスベル 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：区長選出前 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：もろもろの本 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：園遊会 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：ロードイヤホン 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：高橋ストリート 場所：浅草橋駅前	 2023/10/10 撮影：浅草橋 人物：風船の音 場所：浅草橋駅前
---	--	---	---	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	---